



子宮頸がん予防ワクチン接種について

このパンフレットは一般的な管理指針を Q & A 形式で述べたものです。個々の患者さまの具体的な方針については医師にお尋ねください。

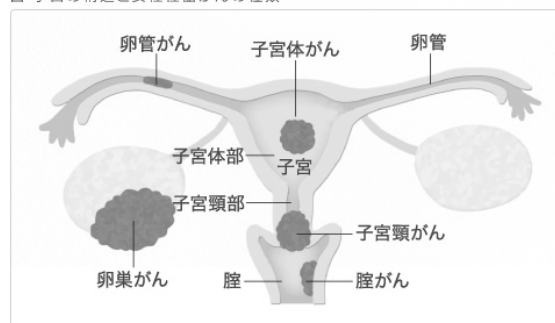
Q1. 子宮頸がんってどんな病気？

子宮頸がんは子宮の入り口にできるがんです。20～30 歳代の若い女性に増加しています。ヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルス感染が原因で引き起こされます。

Q2. ヒトパピローマウイルス (HPV) ってなに？

皮膚や粘膜に感染するウイルスです。ごく普通の性交習慣で多くの人が感染しています。その中でも HPV16 型と 18 型の 2 種類は、子宮頸がんを発症している女性の約 60%¹⁾ から見つかっています。

図:子宮の構造と女性性器がんの種類



Q3. 予防ワクチンってどんなもの？

発がん性の HPV の感染を防ぐワクチンです。²⁾

特に子宮頸がんから多くみつかると HPV16 型と 18 型の感染をほぼ 100% 防ぐことができます。これまでにワクチンの予防効果が 8.3 年続くことが確認されていますが、どれほど持続するのかについては調査が続いています。

Q4. ワクチンを接種すれば、子宮頸がんにはならないの？

予防効果は大変高いと考えられていますが、可能性をゼロにはできません。

HPV16 型と HPV18 型以外のウイルスによる発がんの可能性もあるので、ワクチンを接種しても子宮頸がんにかかる可能性をゼロにできるというわけではありません。

Q5. ワクチンを接種することで、感染したり子宮頸がんになったりすることはないの？

はい、大丈夫です。

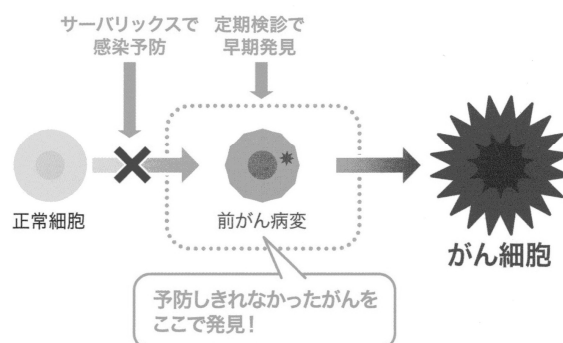
このワクチンの成分には、ウイルス遺伝子を取り除いた外側の殻だけを人工的に作ったものを使っています。見た目はウイルスそっくりですが、中は空っぽなので、ワクチンを接種しても感染したり、子宮頸がんになったりすることはありません。

Q6. ワクチンを接種すれば子宮がん検診は必要ないの？

ワクチン接種後も、必ず 1～2 年に 1 度は子宮がん検診を受けることをお勧めします。

ワクチンで全ての HPV の感染は予防できません。また、接種前に感染した HPV を排除したり、すでに起こっている異常をワクチンで治したりする効果はないからです。

(子宮頸がん検診による早期発見)



Q7. ワクチンは誰でも受けられますか？

接種対象は 10 歳以上の女性です。

最も推奨される年齢は 11～14 歳の女子で、この時期に接種することで予防効果が最も期待できます。また、この年代にワクチン接種を受けることができなかった 15 歳～45 歳の女性についても推奨されています。³⁾ (裏面に続く)

Q8.子宮がん検診で異常が見つかりましたが、このワクチンで子宮頸がんを予防できますか？

予防できません。

このワクチンは、今すでに感染している HPV を排除したり、すでに起こっている前がん病変（異形成）を治したりする効果はありません。

Q9. 子宮がんの初期といわれましたが、このワクチンで進行を抑えることができますか？

子宮がんの進行を抑えることはできません。

このワクチンにはがん細胞の成長を抑えたり、治したりする効果はありません。

Q10. 接種方法・回数・間隔・費用について教えてください。

予約制です。（詳しくはロビー担当者まで）

肩に近い上腕の筋肉に注射します。十分な抗体を得るために半年の間に3回の接種が必要です。初回の接種から1ヶ月後に2回目、6カ月後に3回目を接種します。費用は施設により異なりますが、当院では1回につき16,000円＋消費税としております。⁴⁾

Q11. 副作用はありますか？

一般的なワクチン接種同様の副作用があります。

接種した後には注射した部分が痛んだり、かゆみを感じたり、赤く腫れたりする局所の副反応がみられることがあります。注射する部位の近くを走る神経を傷つけ、しびれがでる可能性もあります。全身的な副反応としては、疲労感や頭痛、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などがあらわれることがあります。

なお、重い副反応として、まれにショックまたはアナフィラキシー様症状を含むアレルギー反応、血管浮腫が認められることがあります。

Q12. 接種の際に注意することはありますか？

下記に該当する場合は接種ができません。

- (1) 明らかに発熱がある
- (2) 重篤な急性疾患にかかっている
- (3) このワクチンの成分に対して過敏症を示したことがある
- (4) 医師がワクチンを接種すべきではないと判断した場合

また、接種後に重いアレルギー症状が起こることがあるので、接種後はすぐに帰宅せずに30分間は当院でお待ちください。接種当日は過激な運動は避け、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありません。接種後1週間は体調管理に留意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状がある時にはご相談ください。

もっと詳しく知りたい方へ

¹⁾ Onuki M et al. : Cancer Sci 100 (7) : 1312-1316,2009

²⁾ ワクチンとは、病気の原因となる細菌やウイルスなどをあらかじめ接種しておき、病気を防ぐ方法です。子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの原因として最も多く報告されている HPV16 型と HPV18 型の2つのウイルスに対してつくられたものと、これに HPV6 型と HPV11 型の2つを加え4つのウイルスに対してつくられたものの2種類があります。

海外ではすでに100ヶ国以上で使用されています。最近の研究では16型、18型以外にも、日本の子宮頸がんの原因 HPV の4位、5位の33型、58型をはじめ、31型、45型に対しても有効性がある（クロスプロテクション効果）という報告があります。

³⁾ 妊婦または妊娠している可能性のある女性の接種は妊娠終了まで延期し、接種期間の途中で妊娠した際には、その後の接種は見合わせることでされています。

授乳中の女性については、接種の有益性が危険性を上回ると考えられる場合のみ接種することとされています。

⁴⁾ 生ワクチンの接種を受けた場合は通常27日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた場合は、通常6日以上間隔をあけて本ワクチンを接種してください。

<参考資料>

1. ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン接種の普及に関するステートメント
日本産婦人科学会／日本小児科学会／日本婦人科腫瘍学会 H21年10月16日
2. 子宮頸がん予防ワクチン添付書
3. The Mainichi Medical Journal 11月号 690-693
4. HPV Insights 2・3号
5. Paavonen J, et al : Lancet 2009;374(9686):301-14

